

国語科学習指導案

1 単元名 教科書編集会議を開き、「竹取物語」の魅力を考えよう。

2 単元の目標

(1)現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を
第2学年[知識及び技能](3)イ

(2)場面と場面、場面と描写などを結びつけ、内容を解釈することができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ

(3)言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を 第2学年(3)イ	①「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈している。 C(1)ウ	①進んで「竹取物語」を読み、学習課題に沿って話し合おうとしている。

4 単元について

(1)本単元を貫く言語活動と扱う教材

本単元では、「竹取物語」の貴公子の物語を読み、教科書に載せたいと思うものを話し合うという言語活動を行う。これは、中学校学習指導要領解説国語編(平成29年告示、以下「学習指導要領」)の第1学年、2[思考力、判断力、表現力等]C「読むこと」の言語活動例イ「小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動」を踏まえている。

「竹取物語」は「物語の出で来はじめの祖」と称され、千年以上もの間読み継がれている現存する最古の物語である。生徒たちにとっては、「かぐや姫」として絵本や昔話で親しんできた物語であり、本格的に古典を学ぶ入門としてふさわしい。「竹取物語」は①かぐや姫の発見と成長、②貴公子と帝の求婚、③月に帰るかぐや姫、④残された人々の嘆きと富士山の由来、と四つの場面構成されている。絵本や昔話で中心となるのは、かぐや姫が竹から発見される場面や、昇天する場面である。ただ、物語で最も筆が割かれているのは貴公子による求婚と失敗の物語である。身分ある貴公子の悪戦苦闘する姿や、結婚を迫られたかぐや姫の人間的な心の動きなど、現代にも通じる物語としての面白さが詰まった部分だからこそ、生徒にも読み味わわせることで、絵本や昔

話の元となっている「竹取物語」の魅力を感じてもらえるのではないかと考える。我が国の伝統と文化を形成してきた古典がなぜ読み継がれてきたのかといえば、どの時代においても「面白い」と受容され、受け入れられる魅力があるからである。

教科書によって「竹取物語」の取り上げられる箇所は異なり、生徒たちの使用する光村図書では冒頭、くらもちの皇子、富士の由来の場面が取り上げられている。これは教育出版でも同じである。一方、東京書籍では冒頭とかぐや姫の昇天、三省堂では現代語訳による物語のあらすじのみである。いずれの教科書でも古典の入門に適した親しみやすい教材として「竹取物語」が位置づけられている。教科書ではくらもちの皇子の本文が掲載されているが、5人の貴公子の物語それぞれに面白さがある。くらもちの皇子の物語が採択されるようになった昭和56年の光村図書の「学習指導書」では、「教材提出の意図」で以下のように述べられている。

【(略)「竹取物語」は教材として幾通りの切りとり方が可能であるが、平安時代人の豊かな想像力と鋭い観察力が大自然と人事の両面に及び、雄大に、また簡潔に展開する部分として、冒頭と「蓬萊の玉の枝」の章を原文に求め、簡単な梗概の中に位置づけた。この「蓬萊の玉の枝」は、竹取の翁とかぐや姫とくらもちの皇子の三者で構成される物語と、くらもちの皇子の語る冒険話の内容という二重の構造になっている。前者はドラマ性を持ち、後者は想像性をもつ(当時の知識人の世界観がうかがえる)。(以下略)(昭和56年度版 中学校「国語」学習指導書1年下巻より)】

つまり、「『蓬萊の玉の枝』の場面では、くらもちの皇子の冒険話として、蓬萊山のきらびやかで美しい様子が語られ、それを想像豊かに読むことができること」と「くらもちの皇子の策略も結局は失敗に終わるという構成、展開の妙を楽しむことができること」が「竹取物語」が長年、古典学習の入口として採用され続けてきた理由と言える。

中学1年生で初めて触れる古典作品として、想像豊かに物語を楽しんでもらい、古典作品への読書意欲を喚起したい、という思いは「蓬萊の玉の枝」の章だけでなく、他の章段の魅力にも迫ることで、より実現できるだろうと考え、本単元を設定した。

また、今回ジグソー学習を取り入れた。分担共同学習となることで、すべての生徒に役割が与えられるため、より意欲的に学習に取り組むようになることを狙いとした。自分が分担したのとは違うエピソードと意見交換をする活動を通して、自分の読みにより深まりを持たせるとともに、作品の魅力にも気づききっかけにさせていきたい。

(2)本単元で身に付けさせたい力

本単元では、学習指導要領の「思考力、判断力、表現力等」C(1)ウ「場面と場面、場面と描写などを結びつけ、内容を解釈すること」ができる力の育成を目指す。学習指導要領解説には「複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味づけを行うことが重要である」と記されている。貴公子の物語の中にはかぐや姫や貴公子の心情が表れた描写が登場するが、そうした描写を比べて読んでみると、登場人物への見方が変わったり、物語全体の印象が変化したりする。他の章段につ

いて知り、場面や人物、情景との結びつけを行うことで、内容を解釈する力を身に付けさせたいと考えた。自分自身で物語の内容を解釈して読むことは、物語を楽しむことにつながるであろう。

本単元は、生徒たちにとって初めて本格的に古典を学ぶ機会となる。原文に触れ、古典の響きを味わい楽しむことはもちろん、長く読み継がれてきた物語としての魅力に気付かせ、生涯にわたって古典に親しむ姿勢を作る土台としたい。そのために、学習指導要領の第2学年「知識及び技能」(3)イ「現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること」も狙いとした。第2学年での内容になるが、古典作品の物語としての魅力を、現代語訳を通して知ろうとすることが、「場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈する」力を身に付けることにつながると考えた。現代語訳や解説の載ったビギナーズクラシックスを活用することで、抵抗感少なく「古典に表れたものの見方や考え方」を感じさせることができるはずである。

5 指導と評価の計画(5 時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○「竹取物語」の概要をつかみ、冒頭部分を音読する。		
2	○教科書のくらもちの皇子の物語を整理し、教科書に載っている理由を考える。	[主体的に学習に取り組む態度]①	Jamboard
3	○ビギナーズクラシックスを読み、担当する貴公子の物語について整理する。	[知識・技能]①	Jamboard
4 本 時	○同じ貴公子を担当する人でグループを作り、教科書に載せたいと思う理由をまとめる。 ○違う貴公子を担当した人同士のグループで、どの貴公子の物語を教科書に載せるのが良いか話し合う。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度]①	観察 学習計画表
5	○これまでの学習を振り返り、読み継いでいきたい「竹取物語」の魅力は何かを考える。	[思考・判断・表現] ①	ノート

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○教科書 P.159～のあらすじを読み、便覧を活用して概要を理解する。	・時代、作者、受容のされ方に触れ、物語への関心を高めるようにする。 ・「竹取物語」について知ってい	

	<p>○教科書 P.158 冒頭部分を音読し、現代語訳を確認する。</p>	<p>たことを発表させ、貴公子の求婚譚が詳しくなっていることなどに気付かせる。</p> <p>・「いふもの」「よろづ」「なむ」「いひける」「うつくしう」「ゐたり」などの歴史的仮名遣いや、現代との意味の違いに注意して読ませる。</p> <p>・範読、追い読み、一斉音読、ペア練習で、古典のリズムを感じながら楽しく読めるように工夫する。</p>	
2	<p>○教科書 P.160～161のくらもちの皇子の物語を読んで、音読する。</p> <p>○Jamboardに「かぐや姫から出された課題」「どんな行動・説明・言い訳などをしているか」「どんな結果になったか」「かぐや姫や周囲の反応」の観点で内容を整理して書き込む。</p> <p>○整理したことをもとに、くらもちの皇子がどのような貴公子だと思ったかを付箋で書き込ませる。</p> <p>○くらもちの皇子の物語が教科書に載っているのはなぜかを考え、全体で共有する。</p>	<p>・古文の範読をしながら現代語訳を読ませて、偽の冒険譚の内容をつかませる。</p> <p>・冒頭と同じように、音読を通して古典のリズムを楽しめるようにする。</p> <p>・該当する内容を教科書で線を引かせる。</p> <p>・すぐにまとめられそうな生徒には、ビギナーズクラシックスの内容にも触れさせる。</p> <p>・書き込むことが難しい生徒は、他の人が書き込んだJamboardを見て内容を大まかにつかむようにさせる。</p> <p>・「不誠実だ」など自分の印象を書き込んでいる場合には、「どのような部分からそう感じたのか」と聞いて、根拠となる話の展開部分に目を向けさせる。</p> <p>・発表させて出てきたものを抽象化し、次時以降に他の貴公子の物語を教科書に載せようと選ぶときの一つの指針にでき</p>	<div data-bbox="1090 1429 1356 1839" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度]① Jamboard くらもちの皇子の人柄について、積極的にJamboardに記入しようとしているか確認する。</p> </div>

		<p>るようにする。</p> <p>(例)「嘘を付いたら必ずばれてしまうのを分かってもらうためだ」→話の展開に分かりやすさがある</p> <p>「手段を選ばないほどかぐや姫と結婚したかった皇子の思いが表れているからだ」→貴公子の人柄に魅力がある</p> <p>・実際の光村図書の選定理由を適宜紹介しつつ、4時間目には「中学一年生が初めて学ぶ古典教材として、古典に親しみをもたせ、もっと読みたいと思わせる」というねらいで貴公子の物語を選ぶ、という見通しを確認する。</p>	
3	<p>○教科書 P.166～167 を読み、他の四人の貴公子の物語の概略を知る。</p> <p>○ビギナーズクラシックスを読み、担当の貴公子について「かぐや姫から出された課題」「どんな行動・説明・言い訳などを行っているか」「どんな結果になったか」「かぐや姫や周囲の反応」の観点ごとに内容を Jamboard に書き込む。</p> <p>○整理したことをもとに、中学一年生の教科書の古典教材として載せると良い理由を、前時</p>	<p>・前時を振り返り、くらもちの皇子と比べながら読むようにさせる。</p> <p>・誰がどの貴公子を担当するかは、あらかじめ指導者が割り振っておくが、「どの貴公子の物語にも面白さがあるので、編集者としてその魅力を引き出してほしい」と意欲を喚起する。</p> <p>・各貴公子の現代語訳の部分をプリントにしておき、観点ごとに色分けして線を引ながら整理できるようにしておく。</p> <p>・ビギナーズクラシックスを読むのに苦戦している生徒には、絵本を紹介したり、他の生徒が書き込んだ付箋を参考にさせたりして内容をつかませる。</p> <p>・「中学一年生が初めて学ぶ古</p>	<div data-bbox="1091 1370 1353 1834" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能]① Jamboard 現代語訳を手掛かりにして、担当した貴公子の物語の魅力を自分なりの言葉で付箋に書き込んでいるか確認する。</p> </div>

	<p>にくらもちの皇子で確認した視点ごとに Jamboard に書き込む。</p> <p>(視点の例) 貴公子の人柄の魅力、話の展開、想像力を働かせるような描写、その他</p>	<p>典教材として、古典に親しみをもたせ、もっと読みたいと思わせる」部分はどこかを意識して書かせる。</p> <p>・「話の展開が面白い」など抽象的な表現を書き込んでいる場合には、「どんなところが、なぜ面白いのか」と聞いて、具体的に現代語訳の描写を指摘させるようにする。</p>	
<p>4 本 時</p>	<p>○同じ貴公子を担当した人3～4人で専門家チームを作り、前時の Jamboard を共有しながら担当した貴公子の物語が教科書に載せるべきどのような魅力をもっているのか話し合う。</p> <div data-bbox="300 1070 667 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※話し合いの流れ:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貴公子の物語の内容を確認する(読み取りに誤りがないかの確認)。 2. 一人ずつ自分がどの視点から魅力を感じたのか、理由とともに説明する。 3. よく分からなかったところは質問し合う。 4. どんな魅力があるのか、箇条書きで Jamboard へ記入する。 </div> <p>○違う貴公子を担当した人4～5人でプロジェクトチームを組み、どの貴公子の物語を教科書に載せたいか、編集会議を開く。</p>	<p>・専門家チームは、前時までの Jamboard への記入を参考に指導者が事前に割り振っておく。</p> <p>・専門家チームでの話し合いは、この後の編集会議のときに自分が担当した貴公子の物語の魅力を他の貴公子を担当したメンバーに伝えるために行うという目的を確認しておく。</p> <p>・自分の選んだ視点と違った視点で魅力を感じた人には、なぜその視点にしたのかを質問するように指示する。同じ視点を選んでいたら、根拠にどのようなことを挙げているのかを比べるよう指示する。</p> <p>・「中学一年生が初めて学ぶ古典教材として、古典に親しみをもたせ、もっと読みたいと思わせる」という編集方針を確認してから話し合いをはじめさせる。</p>	<div data-bbox="1090 1227 1356 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>※2～4時の学習計画表の振り返りを合わせて評価</p> <p>貴公子の物語の魅力を編集会議で紹介できるようにするために、見通しをもって物語を読もうとしているか確認する。</p> </div>

	<p>※編集会議の流れ:</p> <p>1. プロジェクトリーダーから順番に、専門家チームの話し合いで出された貴公子の物語の魅力を紹介する。</p> <p>2. 分からなかったところや不思議に思ったところを質問し合う。</p>	<p>・プロジェクトチームでは司会としてプロジェクトリーダーを立てさせる。</p> <p>・自分が担当した貴公子の物語と比べながら他の人の紹介を聞くように指示する。</p> <p>・話し合いの様子を見て、答えられなさそうな質問が多かったり、答えに窮するような状況があったりしたら、もう一度専門家チームで作戦会議をさせる時間をとる。</p> <p>・多数決などで一人に絞るのではなく、より編集方針に合う貴公子の物語がどれなのかを考えさせる。</p>	<p>[思考・判断・表現]①</p> <p><u>観察</u></p> <p>複数の貴公子の物語を比べる中で、新たな気付きが生まれているか確認する。</p>
5	<p>○いくつかのプロジェクトチームの会議の過程や結果を全体で共有し、さまざまな貴公子の物語の魅力があることを確認する。</p>	<p>・結果的に選べず、「2人以上載せたい」となったときにはその理由や会議の過程を紹介させる。</p>	
	<p>○前時の学習を振り返り、それぞれの貴公子の物語にどのような魅力があったのか確認する。</p> <p>○「竹取物語」の物語の終末部分について教科書を読んで確認し、富士の由来の本文を音読する。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、「竹取物語」がなぜ語り継がれ読み継がれてきたのか、どのよ</p>	<p>・必要に応じて、前時に紹介しきれなかったプロジェクトチームの話し合いの様子についても全体で共有する。</p> <p>・帝とかぐや姫の手紙のやりとりについては、便覧を使って当時の価値観を感じさせられるようにする。</p> <p>・登場人物たちの心情には、現代に暮らす自分たちにも通じるものがあることを、前時まで読</p>	

<p>うな魅力を後の世代に伝えたいのか考え、ノートに記入する。</p> <p>○何人かの振り返りを全体で共有する。</p>	<p>み深めた貴公子の物語に触れながら想起させる。</p> <p>・教科書編集会議という活動も実際に教科書会社で行われているであろうことに気付かせ、さまざまな後生への物語の読み継ぎ方があることも実感させる。</p>	<p>[思考・判断・表現]</p> <p>①</p> <p><u>ノート</u></p> <p>これまで学習してきた「竹取物語」の場面を総合して、自分なりに魅力を考えてかけているか確認する。</p>
---	---	---

6 本時の展開

(1)本時の目標

・場面と場面、場面と描写などを結びつけ、貴公子の物語の内容を解釈することができる。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ

(2)展開

時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準・評価方法
7分	<p>○前時の学習を振り返り、本時の見通しをもつ。</p>	<p>・前時に自分が記入した担当の貴公子についてのJamboardを確認させ、どのような話だったのか、貴公子の物語について個人ではどのように考えていたのかを振り返らせる。</p> <p>教科書編集会議を開き、貴公子の物語の魅力を考えよう。</p> <p>・本時は前半で同じ貴公子を担当した人同士の専門家チームによる担当貴公子の物語の魅力を共有・確認、後半で違う貴公子を担当した人同士のプロジェクトチームに分かれての教科書編集会議を行うことを伝える。</p> <p>・話し合いの流れや注意点はスライドにしてTVに写しておく。</p> <p>・説明後、すぐに話し合いが始められ</p>	

		るように、授業開始時点で専門家チームごとの席に座らせておく。	
13分	○同じ貴公子を担当した人3~4人で専門家チームを作り、前時のJamboardを共有しながら担当した貴公子の物語が教科書に載せるべきどのような魅力をもっているのか話し合う。	・専門家チームでの話し合いは、この後の編集会議のときに自分が担当した貴公子の物語の魅力を他の貴公子を担当したメンバーに伝えるために行うという目的を確認しておく。	
<p>※話し合いの流れ:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貴公子の物語の内容を確認する(読み取りに誤りがないかの確認)。 2. 一人ずつ自分がどの視点から魅力を感じたのか、理由とともに説明する。 3. よく分からなかったところは質問し合う。 4. どんな魅力があるのか、箇条書きでJamboardへ記入する。 			
20分	○違う貴公子を担当した人4~5人でプロジェクトチームを組み、どの貴公子の物語を教科書に載せたか、編集会議を開く。	<p>・自分の選んだ視点と違った視点で魅力を感じた人には、なぜその視点にしたのかを質問するように指示する。同じ視点を選んでいたら、根拠にどのようなことを挙げているのかを比べるように指示する。</p> <p>・「中学一年生が初めて学ぶ古典教材として、古典に親しみをもたせ、もっと読みたいと思わせる」という編集方針を確認してから話し合いをはじめさせる。</p>	
<p>※編集会議の流れ:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトリーダーから順番に、専門家チームの話し合いで出された貴公子の物語の魅力を紹介する。 2. 分からなかったところや不思議に思ったところを質問し合う。 3. お互いの紹介した内容で「古典に親しめそう」「もっと詳しく読んでみたい」と思ったところがどこか述べ合う。 4. お互いの紹介を聞いた上で、どの貴公子を教科書に載せたくなったか述べ合う。 			

5分	○いくつかのプロジェクトチームの会議の過程や結果を全体で共有し、さまざまな貴公子の物語の魅力があることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当した貴公子の物語と比べながら他の人の紹介を聞くように指示する。 ・話し合いの様子を見て、答えられなさそうな質問が多かったり、答えに窮するような状況があったりしたら、もう一度専門家チームで作戦会議をさせる時間をとる。 ・多数決などで一人に絞るのではなく、より編集方針に合う貴公子の物語がどれなのかを考えさせる。 ・結果的に選べず、「2人以上載せた」となったときにはその理由や会議の過程を紹介させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現]① 観察 複数の貴公子の物語を比べる中で、新たな気づきが生まれているか確認する。</p> </div>
5分	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・編集会議を通して新たに気付いたことについて、学習計画表に記入させる。 ・次時では本島での学習を踏まえて、「竹取物語」の魅力を考えていくことを伝える。 	

(3)本時の評価

・場面と場面、場面と描写などを結びつけ、貴公子の物語の内容を解釈している。

[思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ

7 参考文献

清田朗裕(2023).「編集会議を開こう—貴公子への難題比較—」『教育科学国語教育』2023,No.884,pp.72-75